

単元	1 みんなで ききあおう（『じゅんばんに ならぼう』）	4月（2時間…A2）
目標	目的に沿って、自分の聞きたいことを集中して聞くことができる。	
話し動	「じゅんばんにならぼうゲーム」や「一言日記」の中で伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたりする活動	
評価規準	(①知・技) 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いている。((1) ア) (②思・判・表) 「話すこと・聞くこと」において、自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞いている。(A (1) エ) (③主体的態度) 自分が聞きたいことを粘り強く集中して聞き、学習課題に沿って声をかけ合おうとしている。	
	○国語の学習を見渡し、国語の学習に対する見通しをもつ。 ○「じゅんばんにならぼうゲーム」をする。	
	【備考】 ○「じゅんばんにならぼうゲーム」では、「誕生日の順番」「朝、起きた時間が早い順番」などの並び方の条件を設定する。慣れてきたら、声を出さずに並び替える方法も考えられる。 ○体育の体づくり運動と一緒に体育館で行うのもよい。	

単元	2 絵を 文しょうにしよう（『絵を 見て かこう』『つづけて みよう』）	4月（2時間…B2）
目標	想像したことから書くことを見付け、文章に書き表すことができる。	
話し動	絵に描かれた様子を文章に書く活動	
評価規準	(①知・技) 第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1) エ) (②思・判・表) 「書くこと」において、絵を見て想像したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B (1) ア) (③主体的態度) 絵の中から進んで書くことを見付け、これまでの学習を生かして文章を書こうとしている。	
	○絵を見て気付いたことをノートに書き出す。 ○文章に書き表したい様子を決め、習った漢字を使いながら、短い文章を書く（5文程度）。	
	【備考】 ○書くときの視点（「いつ」「どこで」「誰が何をしているか」「どんな様子か」）を提示する。 ○P18のつづけてみようのノートの書き方を確認しながら行うとよい。	

単元	3 そうぞうしたことを生かして 音どくをしよう (『ふきのとう』)		4月(11時間…C11)
目標	物語を読み、想像することと音読することを繰り返し、場面の様子や登場人物の行動などについて具体的に想像することができる。		
読活動	『ふきのとう』を読み、想像したことを生かした音読を聞き合う活動		
評価 規準	(①知・技) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。((1) ク) (②思・判・表) 「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C (1) イ) (③主体的態度) 粘り強く登場人物の行動などの内容を捉え、学習課題に沿って音読を聞き合い、感想を伝え合おうとしている。		
過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1 ○『ふきのとう』の範読を聞いて音読の仕方を話し合い、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 学習課題 場面の様子が分かるように、想像したことを生かして音読発表会をしよう </div>	○想像することに対する課題意識をもてるよう、複数の音読のモデルを提示する。	◇積極的に『ふきのとう』の登場人物のしたことや言ったことについて興味を持ち、これまでに学習した文学的文章の学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふかめる	5 ○場面ごとに、想像したことを聞き合う。 ・ささやく竹のはっぱと、雪をどけようとがんばるふきのとう (最初～P.6 L.6) ・ざんねんそうに話す雪と竹やぶ (P.16 L.8～P.18 L.9) ・はるかぜをおこすお日さま (P.19 L.1～P.20 L.6) ・かおを出すふきのとう (P.20 L.8～最後) 3 ○音読したい場面ごとにグループを編制し、音読を聞き合う。	○場面の様子を想像しながら音読の仕方を考えられるよう、「登場人物の場所」、「したこと」、「言ったこと」を音読の工夫の観点として提示する。 ○ナレーターや登場人物の役割を決めて音読できるよう、場面ごとの登場人物の数に合わせた小グループを編制する。	◇「したことを表す言葉」「言ったことを表す言葉」等、場面の状況を表す複数の叙述を基に、登場人物の行動についてより具体的に想像したことを発言したり記述したりしている。 <発言・本文シート②> ◇『ふきのとう』を、語のまとまりや言葉のひびきを意識して音読したり記述したりしている。 <発言・本文シート①>
ふりかえる	1 ○『ふきのとう』について想像したことを聞き合ったことを基に、単元の学習の振り返りをする。 1 ○まとめテストを行う。	○単元の学習に対する達成感を得ることができるよう、これまでの単元の学習で蓄積した振り返りシートの記述を読み返す機会を設定する。	◇学習課題の解決状況に関わって、積極的に音読したり書き込みをしたりしながら、想像したことを友達と聞き合ったことよさを発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③> ◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト②>

〈読書〉(『図書館たんけん』)		4月(2時間…知・技2)
目標	図書館の本の配置について気付いたことを発表することができる。	
評価 規準	(①知・技) 読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3) エ) (③主体的態度) 進んで読書に親しみ、学習課題に沿って気付いたことを発表しようとしている。	
○本の並べ方を見付けるという学習課題に沿って、図書室で調べ学習を行う。		

〈言葉の学習〉（『春が いっぱい』）		4月（2時間…知・技2）
目標	春を感じる言葉を探し、経験を文章に表すことができる。	
評価 規準	(①知・技)言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いている。(Ⅰ)ア (②思・判・表)「書くこと」において、経験したことや想像したことから書くことを見付けている。(B(Ⅰ)ア) (③主体的態度)積極的に言葉の働きに気づき、学習課題に沿って経験を文章に表そうとしている。	
○教科書を見たり、校庭に行ったりして、春を感じる言葉をノートに書く。 ○春を感じる言葉や絵、春を感じた理由をカードに書く。		

単元	4 ともだちに しらせよう（『日記を 書こう』）		4・5月（5時間…B5）
目標	身近な出来事を日記に書くことができる。		
話し活動	身近な出来事を日記に書く活動		
評価 規準	(①知・技)言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(Ⅰ)ア (②思・判・表)「書くこと」において、経験したことから書くことを見付け伝えたいことを明確にしている。(B(Ⅰ)ア) 「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意している。(B(Ⅰ)ウ) (③主体的態度)進んで経験から伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって日記に書こうとしている。		
過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1 ○最近の身近な出来事を話し合い、友達に知らせたいニュースを見付けて、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 学習課題 順序に気を付けて日記を書こう </div>	○日記の書き方に課題意識をもてるよう、順序が整った日記例と、整わない日記例を提示する。	◇積極的に日記の書き方に関心をもち、これまでの書くことの学習を想起しながら、時間の順序に関わる学習課題について発言したり記述したりしている。<発言・ノート③>
ふかめる	2 ○伝えたいことを日記に書く。	○日記に用いる語彙を増やすことができるよう、教科書P161「ことばのたからばこ」を提示する。	◇「ことばのたからばこ」に提示されている言葉を使って日記を書いている。<発言・学習プリント①②>
ふりかえる	1 ○友達の日記を読んで感想を書き、学習を振り返る。	○順序に着目して学習を振り返ることができるよう、「話のじゅんばん」を視点として提示する。	◇学習課題の解決状況に関わって、今後に生かせそうな書き方について発言したり記述したりしている。<発言・ノート③>

単元	5 だいじな ことをつたえよう（『ともだちは どこかな』『声の 出し方に 気を つけよう』）			5月（4時間…A4）
目標	大事なことをメモしながら聞き取ることができる。			
活動	「友だちさがしゲーム」の中で、必要な情報を聞き取る活動			
評価 規準	(①知・技) アクセントによる語の意味の違いなどに気付いている。(I)イ (②思・判・表) 「話すこと・聞くこと」において、自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞いている。(A(I)エ) (③主体的態度) 自分が聞きたいことを粘り強く集中して聞き、今までの学習を生かしてメモしながら聞き取ろうとしている。			
過程		学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか む	1	○試しの「友だちさがしゲーム」を行い、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 学習課題 大事なことに気を付けて話を聞こう	○聞き逃してはいけないことに対する課題意識をもてるよう、必要な情報が入ったお知らせと、情報が不足したお知らせを提示する。	◇積極的に話の聞き方に関心を持ち、これまでの聞くことの学習を想起しながら、大事なことに気を付けて聞くことに関わる学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふ か め る	2	○必要な情報についてのメモを取りながら「友だちさがしゲーム」を行う。	○必要な情報を落とさずに話したり聞いたりできるよう、メモを取る際の視点「服装」「持ち物」「場所」等を提示する。	◇提示された視点に沿って、必要な情報をメモしている。 <学習プリント②>
か ふ え り る	1	○アクセントの大切さについて話し合い、学習を振り返る。	○メモを取るときの情報の受け取り方に意識をもてるよう、アクセントの違いによって意味が変化する言葉を提示する。	◇学習課題の解決状況に関わって、今後に生かせそうな聞き方について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート①②③>

単元	6 たんぽぽの ひみつを まとめよう (『たんぽぽの ちえ』『つながりをとらえよう じゅんじょ』)		5月(12時間…知・技2, C10)
目標	時間的な順序を考えながら、たんぽぽの様子の変化とその理由を読み取ることができる。		
議題	生き物の知恵を説明した文章を読み、分かったことや考えたことを述べる活動		
評価 規準	(①知・技) 順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) (②思・判・表) 「読むこと」において、時間的な順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) (③主体的態度) 粘り強く時間的な順序などを考えて内容を捉え、学習の見通しをもって、文章を読んで思ったことを書こうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点 評価規準<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
つか か む	1	○『たんぽぽのちえ』の挿絵を並べ替えたり、文章を読んだりして感想をもち、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 学習課題 『たんぽぽのちえ』を順序に気を付けて読もう	○文章の順序に課題意識をもてるよう、順序を入れ替えた『たんぽぽのちえ』の挿絵を提示する。 ◇積極的に『たんぽぽのちえ』の構成や段落の役割及びそれらの関係について関心をもち、これまでに学習した説明的文章の学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふ か め る	5	○時間的な順序に沿って、たんぽぽの「ちえ」と「わけ」をまとめる。 ・花のじくが倒れる。(はじめ～P.44 L.8) ・白い綿毛ができる。(P.44 L.9～P.45 L.4) ・花のじくが起き上がり、伸びていく。(P.45 L.5～P.46 L.4) ・綿毛がひらいたりすぼんだりする。(P.46 L.5～P.47 L.5)	○順序に気を付けて読むことができるよう、『たんぽぽのちえ』の挿絵カードを並べ替える機会を設定する。 ○たんぽぽの様子の変化とその理由を関連付けて捉えられるよう、①挿絵、②「ちえ」の枠、③「わけ」の枠を設定した「たんぽぽのちえカード」を用意する。
	1	○「始め」と「終わり」の役割を話し合う。	○それぞれの役割に気付けるよう、「ちえ」と「わけ」が書かれている段落をぬいた文章を提示する。 ◇「問い」と「答え」に関わって、段落の役割について考えたことを発言したり記述したりしている。 <発言・たんぽぽのちえカード②>
	1	○たんぽぽの凄いと思うところを話し合う。	○たんぽぽが様子を変える理由に関わらせて自分の考えを書けるよう、「ちえ」「わけ」を記述したカードを見ながら話す機会を設定する。 ◇たんぽぽが様子を変える理由に関わって、感想を発言したり記述したりしている。 <発言・たんぽぽのちえカード②>
	2	○図書室で、草花の知恵について書かれた本を探して読む。	○科学読み物に対する意欲を高められるよう、草花の知恵について書かれた本を紹介する。 ◇草花には、いろいろな知恵があることについて発言したり記述したりしている。 <発言・ノート①>
ふ り か え る	1	○順序に気を付けた文章の書き方のよさについて話し合い、単元の学習の振り返りをする。	○順序に着目して学習を振り返ることができるよう、並べ替えることができる、文章を段落ごとに分けたカードを用意する。 ◇学習課題の解決状況に関わって、今後に生かせそうな読み方について発言したり記述したりしている。<発言・ノート③>
	1	○まとめテストを行う。	◇6割以上の問題について、正答を出している。<テスト②>

単元	7 大きくなったよ！みんなのやさい（『かんざつ名人になろう』）		5～7月（10時間…B10）
目標	観察したことを、観点に沿って詳しく記録することができる。		
話し活動	野菜の様子を詳しく観察し、見つけた事柄を書く活動		
評価規準	(①知・技) 身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。((1)オ) (②思・判・表) 「書くこと」において、経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。(B (1)ア) 「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B (1)イ) (③主体的態度) 書くために必要な事柄を積極的に集めたり確かめたりし、今までの学習を生かして観察記録文を書こうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○観察文の書き方の工夫を話し合い、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 学習課題 みんなの野菜をよく観察して、詳しくする言葉を使った観察文を書けるようになる	○詳しく観察するための観点到気付くことができるよう、観察文のモデルと「色」「形」「触った感じ」が抜けている観察文のモデルのリライト文を比較する機会を設定する。
ふかめる	1	○野菜のたねを観察し、気付いたことを絵と文で書く。	○野菜のたねの様子を詳しく記述できるよう、「色」「形」「触った感じ」「大きさ」を観察の観点として提示する。
	1	○自分の観察文とモデルの観察文を比較し、詳しく書くための言葉や観察する際の観点を話し合う。	○より詳しく書くために必要な事柄に気付けるよう、五感を使って観察したことを表現した文章をモデルとして提示する。
	6	○詳しく観察するための観点を基に、野菜の成長段階に合わせて、継続的に観察文を書く。 観察文を書くタイミング例 ①芽が出たとき ②本葉が出たとき ③葉の枚数が増えたとき ④花が咲いたとき ⑤実が成り始めたとき ⑥実が熟したとき	○野菜の様子について、詳しく文章に書くための情報を集められるよう、実際に野菜を観察したり、長さを測ったりする機会を設定する。
かふえり	1	○書きためた観察記録文を読み返し、単元の学習の振り返りをする。	○詳しくする言葉を使うことよさを実感できるよう、継続して書いてきた観察カードの分かりやすいところを話し合う機会を設定する。
【備考】 ○生活科「おいしくなあれ みんなのやさい」で自分が育てている野菜について継続的に観察し、国語科の時間に「観点に沿って詳しく記録することができる」よう指導する。 ○算数科「長さのたんい」で30cmものさしの使い方を学習した後は、積極的にものさしで長さを測るよう指導するとよい。			

評価規準<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」

◇観察文を書くことへの関心を高め、学習課題について発言したり記述したりしている。
<発言・ノート③>

◇野菜のたねの様子を詳しく記述できる言葉を使って、気付いたことを記述している。
<学習プリント①>

◇モデル文の中から、詳しくする言葉を見付け、指摘している。
<発言・学習プリント①>

◇詳しくする言葉を使って、分かりやすく書くという目的に応じ、観察の観点を生かして必要な事柄を集め、観察文を書いたり書き直したりしている。
<観察文②>

◇学習課題の解決状況に関わって、進んで詳しくする言葉に着目し、今後生かせそうな文章の書き方について発言したり記述したりしている。
<発言・ノート③>

〈読書〉むかし話を 楽しもう (『いなばの 白うさぎ』)		5月 (2時間…知・技2)
目標	神話の読み聞かせを聞き、感想を伝えることができる。	
評価 規準	(①知 ・ 技) 神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。((3) ア) (③主体的態度) 進んで神話の読み聞かせを聞き、学習課題に沿って感想をつたえようとしている。	
○教師の読み聞かせを聞き、場面の様子について想像したことやおもしろいと思ったことを話し合う。 ○図書室で、昔話を見付けて読み、見付けた昔話のおもしろさを紹介し合う。		

〈言葉の学習〉 (『同じ ぶぶんを もつ かん字』)		5月 (2時間…知・技2)
目標	漢字の同じ部分を意識して読んだり書いたりすることができる。	
評価 規準	(①知 ・ 技) 第2学年までに配当されている漢字を読んだり、文や文章の中で使ったりしている。((1) エ) (③主体的態度) 積極的に第2学年までに配当されている漢字を使い、学習課題に沿って漢字の同じ部分を意識して、読んだり書いたりしようとしている。	
○教科書の漢字を見て、同じ部分について話し合い、同じ部分に気を付けて漢字を書く。 ○同じ部分をもつ漢字を見付ける。		

単元	8 そうぞうしたことをしょうかいしよう(『スイミー』)		5・6月(11時間…C11)
目標	『スイミー』を読み、行動描写と場面の様子とを結び付けながら、登場人物の行動を具体的に想像することができる。		
語活動	『スイミー』を読み、想像したことを聞き合ったり、音読したりする活動		
評価規準	(①知・技)身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使いながら、語彙を豊かにしている。(1)オ (②思・判・表)「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) (③主体的態度)進んで場面の様子の叙述に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って想像したことを聞き合おうとしたり、紹介文を書こうとしたりしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○『スイミー』を読んで感想を書き、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 学習課題 『スイミー』について想像したことを紹介しよう	○『スイミー』について想像することに対する課題意識を高められるよう、「スイミーがしたこと」を観点として提示する。
ふかめる	1 5 2	○『スイミー』の場面の数を確かめ、あらすじを捉える。 ○『スイミー』を読み、想像したことを聞き合ったり、音読したりする。 ・兄弟たちと楽しく暮らしていたスイミー (最初～P.64 L.5) ・まぐろから逃げるスイミー (P.66 L.1～P.67 L.10) ・おもしろいものを見て元気になるスイミー (P.68 L.1～P.69 L.10) ・小さな赤い魚を見付けるスイミー (P.70 L.1～P.71 L.10) ・小さな赤い魚と協力して大きな魚を追い出すスイミー (P.72 L.1～最後) ○想像したことを基に、『スイミー』の好きな場面の紹介文を書く。	○登場人物の行動の大体を捉えられるよう、学習用語「あらすじ」と、それをまとめる文型を提示する。 ○登場人物の行動を想像する際に、根拠となる叙述に着目できるよう、ペアで書き込みができる本文シートを用意する。 ○登場人物の行動を具体的に想像できるよう、「したことを表す言葉」と五感を観点として提示する。 ○好きな場面を明確にした紹介文を書けるよう、文章構成「始め・中・終わり」とあらすじを用いた文章のモデルを提示する。
ふりかえる	1 1	○紹介文を読み合い、単元の学習の振り返りをする。 ○まとめテストを行う。	○登場人物の行動を具体的に想像できたことを実感できるよう、初発の感想と紹介文とを照らし合わせながら、紹介文を読み返す機会を設定する。
<p>【備考】 ○言語活動を音読として、1年生に読み聞かせをする活動を行ってもよい。(R5の公開研で実施)</p>			

評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇積極的に『スイミー』の登場人物の行動について興味を持ち、これまでに学習した文学的文章の学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。
<発言・ノート③>

◇「(～している)スイミー。」の文型で、5つの場面をそれぞれ短い言葉でまとめて記述している。
<ノート③>

◇登場人物の行動を想像する際に、『スイミー』の場面の様子に関わる叙述を指摘している。
<発言・本文シート①>

◇「したことを表す言葉」を中心に、複数の叙述をつなげて、登場人物の行動について具体的に想像したことを発言したり記述したりしている。
<発言・本文シート②>

◇これまでに想像したことを基に、自分の好きな場面とその理由を紹介文として書いている。
<原稿用紙③>

◇学習課題の解決状況に関わって、積極的に音読しながら想像したことを友達と聞き合うという学び方のよさを発言したり記述したりしている。
<発言・ノート③>

◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト②>

〈言葉の学習〉『かん字の ひろば①』		6月(1時間…B1)
目標	学習した漢字を使って、絵を説明する文を書くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1) エ) (②思・判・表) 「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B (1) ウ) (③主体的態度) 今までの学習を生かして、進んで第1学年に担当されている漢字を使って文を書こうとしている。	
○教科書の絵に合うように、海に囲まれた島の様子を想像し、漢字を用いて文を作る。 ○書いた文を読み合う。		

〈言葉の学習〉『メモをとる とき』		6月(3時間…B3)
目標	知らせたいことをメモに取ることができる。	
評価 規準	(①知・技) 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いている。((1) ア) (②思・判・表) 「書くこと」において、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。(B (1) ア) (③主体的態度) 粘り強く必要な事柄を集め、今までの学習を生かして知らせたいことをメモに取ろうとしている。	
○これまでにメモをとった経験を振り返り、メモの役割やよさを話し合う。 ○メモの取り方を知り、メモを取り、互いのよいところを伝え合う。 ○生活科の町探検の前に実施し、次単元と関連させて扱う。		

単元	9 町たんけんで見付けた すごいもの (『こんな もの 見付けたよ』コラム『丸, 点, かぎ』)		6月(11時間…B11)
目標	町探検で調べてきた知らせたいことについて, 組み立てを考え, 報告する文章にまとめることができる。		
話し活動	町探検で調べてきたことを, 組み立てに気を付けて報告する文章に書き表す活動		
評価規準	(①知・技) 句読点の打ち方, かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。((1)ウ) (②思・判・表) 「書くこと」において, 事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ) 「書くこと」において, 文と文の続き方に注意しながら, 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 「書くこと」において, 文章に対する感想を伝え合っている。(B(1)オ) (③主体的態度) 事柄の順序に沿った構成を粘り強く考え, 学習の見通しをもって, 組み立てを考えて文章にまとめようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○町探検で見付けたものに関する試しの報告書を書き, 学習課題を設定し, 学習計画を立てる。 学習課題 町探検で見付けたすごいものを, お家の人に伝える報告書を書こう	○報告書に対する課題意識をもてるよう, 報告書のモデルを複数提示する。
	1	○『丸, 点, かぎ』を読み, 句読点の使い方やかぎを用いた文章を書く。	○句読点やかぎの使い方を理解できるよう, 句読点やかぎを用いた文章を視写するための学習プリントを用意する。
ふかめる	2	○「はじめ」「中」「おわり」のまとまりごとに, 組み立てメモを書く。	○内容のまとまりごとに組み立てを考えることができるよう, 「知らせたいこと」「詳しい説明」「まとめ」を, 「始め-中-終わり」の内容の観点として提示する。
	2	○メモを友達と読み合ってよさや課題点を伝え合い, 修正する。	○メモの課題点を見付けられるよう, 「中」の段落を詳しくするための観点として, 「色」「形」「大きさ」「におい」などを提示する。
	3	○報告書を清書する。	○内容のまとまりごとに組み立てられるよう, 「始め-中-終わり」が整っている報告書モデルを提示する。
	1	○書いた報告書を読み合い, 感想をまとめる。	○構成を整えて書けたことを確認できるよう, 「ふかめる」過程で提示した観点を再度提示する。
かふえりる	1	○報告書を読んだ感想を伝え合い, 単元の学習の振り返りをする。	○報告書を書くことに対する達成感を感じられるよう, 単元の初めに書いた試しの報告書と比較する機会を設定する。
【備考】 ○生活科の町探検で調べてきたことを報告書にまとめる活動を通して, 国語科「知らせたいことについて組み立てを考え, 報告する文章にまとめること」を指導する。			

評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇事柄の順序に沿った報告書の書き方への関心を高め, これまでに学んだ書くことの学習を想起しながら, 学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>

◇句読点やかぎを正しく書き写している。 <学習プリント①>

◇「はじめ」「中」「おわり」の構成に沿って組み立てメモを記述している。 <メモ②>

◇「色」「形」「大きさ」「におい」の観点で, 内容のまとまりを詳しく記述している。 <メモ②>

◇「はじめ」「中」「おわり」の構成に沿って報告書を記述している。 <報告書②>

◇友達が書いた報告書のよいところや, 自分の書いた報告書のよいところを発言したり記述したりしている。 <発言・ノート②>

◇学習課題の解決状況に関わって, 進んで事柄の順序に沿って書くことに着目し, 今後になかかせそうな文章の書き方について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>

〈言葉の学習〉『かん字のひろば②』		6月（1時間…B1）
目標	学習した漢字を使って、絵を説明する文を書くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1) エ) (②思・判・表) 「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B (1) ウ) (③主体的態度) 今までの学習を生かして、進んで第1学年に担当されている漢字を使って文を書こうとしている。	
○教科書の絵に合うように男の子の生活を想像し、一週間の日記として漢字を用いた文を書く。 ○書いた文を読み合う。		

〈言葉の学習〉『かたかなの ひろば』		6月（1時間…B1）
目標	片仮名を使い、絵を表す文を書くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 片仮名を書くとともに、文の中で使っている。((1) ウ) (②思・判・表) 「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意している。(B (1) ウ) (③主体的態度) 今までの学習を生かし、進んで片仮名を使った文を書こうとしている。	
○身の回りにある片仮名の言葉を集める。 ○集めた片仮名の言葉や教科書の絵にある言葉を使って、短文を作る。		

単元	10 いいなを聞くには、どうしよう？（『あったらいいな、こんなもの』）		6・7月（8時間…A8）
目標	自分の考えを説明したり、聞いた説明の内容に沿った質問をしたりすることができる。		
話し活動	あったらいいなと思うものに関する自分の考えを説明したり、友達と質問し合ったりする活動		
評価規準	(①知・技) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。((1) ア) (②思・判・表) 「話すこと・聞くこと」において、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A (1) ア) 「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A (1) エ) (③主体的態度) 積極的に友達の話の中から理由や状態、程度を捉えて聞きながら、学習課題の解決に向けて、必要な事柄を選びながら話したり聞いたりしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○あったらいいなと思う道具を発表し合い、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 学習課題 詳しく話したり、聞いたりできるように、友達と「あったらいいな」を聞き合おう	○「あったらいいな」と思うものを詳しく知るための語句(「どうして」「どんな色」等)を使うことの必要性に気付けるよう、「わけ」「はたらき」「つくり」等の説明が不十分な教師のモデルを提示する。
	ふかめる	2 ○「あったらいいな」と思う道具の絵を描き、使い方を説明する。 3 ○友達と絵の説明を聞き合い、質問し合う。 1 ○グループで「あったらいいな」発表会を行い、感想をまとめる。	○道具の使い方をイメージしながら描けるよう、「道具を使っている人」という条件を提示する。 ○「どうして」「どんな」「どれくらい」等の語句を使って聞くことができるよう、質問で使う言葉を共有する。 ○詳しく分かったことについて感想を伝えられるよう、「あったらいいなと思うわけ」「はたらき」「形、色、大きさ」を、聞く際の観点として提示する。
ふりかえる	1	○「あったらいいな」発表会の感想を発表し、単元の学習の振り返りをする。	○単元の学習の成果を実感できるよう、「つぎにしつもんをするときに気をつけること」を、観点として提示する。
		評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」	
		◇詳しく聞くことに興味をもち、これまでの学習した話したり聞いたりする学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>	
		◇自分が「あったらいいな」と思う道具の絵に、道具の使用者等の簡単な説明を書いている。 <ロイロノート①>	
		◇「どうして」(理由を表す語句)や「どんな」(状態を表す語句)、「どれくらい」(程度を表す語句)等をバランスよく使って、話したり聞いたりしている。 <発言・ロイロノート②>	
		◇「あったらいいなと思うわけ」「はたらき」「形、色、大きさ」が万遍なく含まれている話し方ができたことや友達の話の内容がそれらを使っていること等に触れながら、感想を発言したり記述したりしている。 <発言・ノート②>	
		◇学習課題の解決状況に関わって、進んで詳しく聞くことに触れ、今後に生かせそうな話の聞き方について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>	

〈言葉の学習〉『かん字のひろば③』		6月（1時間…B1）
目標	学習した漢字を用い、絵を説明する文を書くことができる。	
評価規準	(①知・技) 第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1) エ) (②思・判・表) 「書くこと」において、語と語の続き方に注意している。(B (1) ウ) (③主体的態度) 今までの学習を生かして、進んで第1学年に配当されている漢字を使って文を書こうとしている。	
○教科書の絵に合う文を、漢字を正しく用いて書く。 ○書いた文を発表し合う。		

〈言葉の学習〉『夏が いっぱい』		7月(2時間…B2)
目標	夏を感じる言葉を探し、経験を文章に表すことができる。	
評価 規準	(①知・技)言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いている。((1)ア) (②思・判・表)「書くこと」において、経験したことや想像したことから書くことを見付けている。(B(1)ア) (③主体的態度)積極的に言葉の働きに気づき、学習課題に沿って経験を文章に表そうとしている。	
○夏を感じる言葉や絵、夏を感じた理由をカードに書く。		
○1学期の言語事項について、まとめのテストをする。 【備考】		

単元	11 お気に入りの本をしょうかいしよう(『お気に入りの本をしょうかいしよう』『ミリーのすてきなぼうし』)		7月(8時間…C8)	
目標	お気に入りの本を紹介することができる。			
話し活動	学校図書館などを利用し、お気に入りの本を紹介する活動			
評価 規準	(①知・技)読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ) (②思・判・表)「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) (③主体的態度)進んで読書に親しみ、学習課題に沿ってお気に入りの本を紹介しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか かむ	1	○今までの読書経験を振り返り、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 —学習課題— お気に入りの本を紹介し、色々な本を知ろう	○友達に本を紹介する課題意識を高められるよう、自分が好きな本を書き出す付箋紙を用意するとともに、付箋紙を分類する機会を設定する。	◇自分の好きな本の傾向を捉え、本を紹介することについて記述している。 <付箋紙・ノート③>
ふか める	2 1 2 1	○『ミリーのすてきなぼうし』を読み、あらすじを捉える。 ○『ミリーのすてきなぼうし』を、自分の好きな場面を中心に紹介する。 ○お気に入りの本を紹介するメモを作る。 ○友達と本を紹介し合い、感想をまとめる。	○各場面の様子を具体的に想像できるよう、疑問に思ったことを聞き合う機会を設定する。 ○紹介に必要なことを確認できるよう、本の紹介で知りたいことを話し合う機会を設定する。 ○紹介する内容を整理することができるよう、「題名」「書いた人」「登場人物」「話の内容」「すきなところ」を観点として記した紹介メモを用意する。 ○紹介する機会を保障できるよう、2～3人のグループを編制する。	◇それぞれの場面の「ミリー」の行動や帽子の様子について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート②> ◇『ミリーのすてきなぼうし』の好きな場面について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート②> ◇お気に入りの本を選んで紹介メモを作っている。 <紹介メモ①> ◇友達が書いた紹介メモのよいところや、自分の書いた紹介メモのよいところを発言したり記述したりしている。 <発言・ノート②>
ふり か え る	1	○お気に入りの本を紹介したことの感想を発表し、単元の学習の振り返りをする。	○目的に応じて本を選んで読むことの楽しさを実感できるよう、「おもしろそうな本」「読んでみたい本」の感想を聞く際の観点として提示する。	◇学習課題の解決状況に関わって、友達と本を紹介し合ったことに触れ、そのよさについて発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>

国語科 2年

単元	12 楽しく音読しよう（『雨のうた』）	7月（2時間…C2）
目標	想像した場面の様子に合うように、工夫して音読することができる。	
話し活動	『雨のうた』の音読を発表し合う活動	
評価規準	(①知・技) 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1) ク) (②思・判・表) 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C (1) カ) (③主体的態度) 粘り強く語のまとまりや言葉の響きに気をつけ、学習課題に沿って詩のよさが伝わるように音読しようとしている。	
○『雨のうた』を、繰り返しの表現や呼びかけの表現の読み方を工夫して音読する。 ○ペアやグループで、工夫した音読を発表し合う。		

単元	13 昔話って、楽しい！（『せかいーの話』）	7月（1時間…知・技1）
目標	昔話の読み聞かせを聞き、楽しかったところを発表することができる。	
話し活動	昔話の読み聞かせを聞き、楽しかったところを発表し合う。	
評価規準	(①知・技) 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。((3) ア) (②思・判・表) 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C (1) エ) (③主体的態度) 進んで昔話の読み聞かせを聞き、学習の見通しをもっておもしろいと思ったことを伝え合おうとしている。	
○教師の読み聞かせを聞き、楽しかったところを発表し合う。		

〈言葉の学習〉『ことばあそびをしよう』		7月（3時間…知・技3）
目標	折り句や言葉遊びの詩を楽しむことができる。	
評価規準	(①知・技) 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。((3) イ) (③主体的態度) 進んで言葉の豊かさに気付き、見通しをもって言葉遊びを楽しもうとしている。	
○「あいうえお」や「あかさたな」を使って文を作り、発表し合う。 ○「数えことば・数えうた」「ことばあそびうた」「いろはうた」「上毛かるた」などを楽しんで音読する。		

〈言葉の学習〉（『なかまのことばとかん字』）		10月（2時間…知・技2）
目標	身近なことを表す言葉を、意味によるまとまりで仲間分けすることができる。	
評価規準	(①知・技) 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。((1) オ) (③主体的態度) 進んで言葉には意味によるまとまりがあることに気付き、学習課題に沿って言葉を集め、仲間分けをしようとしている。	
○教科書の言葉の仲間分けを話し合う。 ○言葉の仲間分けクイズを作り、出し合う。		

国語科 2年

単元	14 せいかつの中で読もう（『みの回りのものを読もう』）	9月（3時間…A3）
目標	身の回りのものから、情報の伝え方にあった内容を読み取ることができる。	
話し活動	身の回りの標識や看板から、その者が伝えている情報を読み取る活動	
評価規準	(①知・技) 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いている。((1) ア) (②思・判・表) 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を選び出している。(C (1) イ) (③主体的態度) 積極的に身の回りの情報から重要な語を考えて選び出し、それらの機能と工夫を集めようとしている。	
	○教科書P.118の写真が伝えているを話し合う。 ○それぞれの写真の工夫を観点に沿って見付ける。(観点：文字の大きさ、文字の色、ことばの多さ、絵の使い方) ○学校内や身の回りの標識や看板を見付け、伝えているものを読み取る。	

単元	15 みちあんないをしよう（『ことばでみちあんない』）	9月（3時間…A3）
目標	大事なことを落とさないように友達と道案内をし合うことができる。	
話し活動	友達と道案内をし合う活動	
評価規準	(①知・技) 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2) ア) (②思・判・表) 「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、話す事柄の順序を考えている。(A (1) イ) 「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞いている。(A (1) エ) (③主体的態度) 話す事柄の順序を粘り強く考え、学習課題に沿って道案内をしようとしている。	
	○道案内の経験を想起し、学習課題を設定する。学習課題例：大事なことを落とさないように、道案内をしたり、道を尋ねたりしよう。 ○R06は、生活科「町のたんけん」で「でかけよう」で使用した学校周辺の地図を基に、道案内の仕方を考えた。	

単元	16 書くときにつかおう（『書いたら、見直そう』）	9月（3時間…B3）
目標	言葉の表記に気を付けて、文章を見直すことができる。	
話し活動	書いた文章を見直す活動	
評価規準	(①知・技) 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。 ((1) ウ) (②思・判・表) 「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文の続き方を確かめたりしている。(B (1) エ) (③主体的態度) 進んで文章を読み返し、学習課題に沿って間違いを正そうとしている。	
	○教師のモデル文を提示し、学習課題を立てる。学習課題例：文章を読み直して、間違ったところを正しく書き直そう。 ○教師のモデル文から、文章を見直すときに、確認する視点を見付ける。(視点：のばす音（長音）、ねじれる音（拗音）、つまる音（促音）、はねる音（撥音）、「は」「へ」「を」、「、」や「。」、「台詞」) ○視点を基に、文章を見直す。 ○この視点は、書くときの推敲の際にも用いていくとよい。	

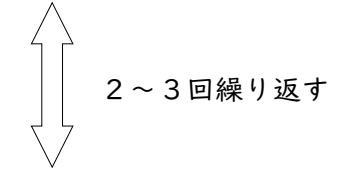
単元	17 文しょうと自分をつなげて読もう (『どうぶつ園のじゅうい』)		9月(13時間…知・技1, C12)
目標	説明的な文書を読んで、説明の仕方や内容について感想をもち、考えたことを話すことができる。		
話し動	説明的文章を読み、分かったことや考えたことを話す活動		
評価規準	(①知・技) 共通, 相違, 時間の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア (②思・判・表) 「読むこと」において, 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら, 内容の大体を捉えている。(C(1)ア) 「読むこと」において, 文章の内容と自分の経験とを結び付けて, 感想をもっている。(C(1)オ) (③主体的態度) 進んで文章と経験とを結び付けて感想をもち, 学習の見通しをもって考えたことを話そうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○『どうぶつ園のじゅうい』を読んだ感想を発表し, 学習課題を設定し, 学習計画を立てる。 学習課題 『どうぶつ園のじゅうい』を読んで考えたことを聞き合おう	○説明的な文章を読むことへの課題意識を高められるよう, 「読んで分かったこと」「分からなかったこと」を感想を書く際の観点として提示する。
ふかめる	1	○『どうぶつ園のじゅうい』を読み, 時間的な順序に着目して, 内容のまとまりごとに分ける。	○時系列に沿って記述されていることに気付けるよう, 時間を表す言葉を観点として提示する。
	5	☆まとまりごとに書かれている内容を表にまとめる。 ・朝の仕事 (P.116 L.6~P.117 L.11) ・見回りが終わるころ (P.118 L.1~P.118 L.11) ・お昼前 (P.119 L.1~P.120 L.1) ・お昼すぎ (P.120 L.2~P.120 L.11) ・夕方 (P.121 L.1~P.121 L.11) ・1日の仕事の終わりに (P.122 L.1~P.122 L.8) ・動物園を出る前 (P.122 L.9~最後)	○まとまりごとの内容を整理することができるよう, 「時間」「動物」「仕事」を, 整理する際の観点として提示する。 ○時間的な順序で文章を書くことによさについて考えられるよう, 「時間」「動物」「仕事」の観点が記された, 並べ替えることができるカードを, 内容のまとまりごとに1枚用意する。
	2	○『どうぶつ園のじゅうい』を読み, 自分の経験と結び付けて考えたことを聞き合う。	○自他の考えを比べながら話したり聞いたりできるよう, 「感じたこととわけ」「筆者の仕事の様子」「考えたこと」を観点として提示する。
ふりかえる	2	○仕事に関する本を読み, 自分の経験と結び付けて考えたことをまとめる。	○自分の経験と結び付けて感想がもてるよう, 知っている仕事を想起する時間を設定する。
	1	○単元の学習の振り返りをする。	○文章を読んで考えをもつことの達成感を味わえるよう, 単元の学習を通して蓄積してきた振り返りを読み返す機会を設定する。
	1	○まとめテストを行う。	
			評価規準<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」 ◇積極的に説明的文章を読んで感想をもつことについて関心をもち, これまでに学習した説明的文章の学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③> ◇時系列に沿って, 文章を7つのまとまりに分けている。 <ノート①> ◇観点に沿って, 文章の内容を表にまとめている。 <学習プリント②> ◇時間的な順序を示す言葉に着目し, カードを正しく並べ替えている。 <カード型学習プリント①> ◇「感じたこととわけ」「筆者の仕事の様子」「考えたこと」の視点で感想をもち, 話したり書いたりしている。 <発言・ノート②> ◇仕事について書かれた本を読み, 自分と関わらせて感想を発言したり記述したりしている。 <発言・ノート②> ◇学習課題の解決状況に関わって, 読んで考えたことを友達と聞き合うことによさについて発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③> ◇6割以上の問題について, 正答を出している。 <テスト②>

単元	18 音読げきをしよう (『お手紙』)		10月(16時間…C16)
目標	物語を読み、想像することと音読することを繰り返し、音読劇に向けて登場人物の行動を具体的に想像することができる。		
話し活動	物語を読み、想像したことを生かして音読劇をする活動		
評価規準	(①知・技) 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(C(1)ク) (②思・判・表) 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) (③主体的態度) 粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って音読劇に取り組もうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点 評価規準<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○『お手紙』の音読を聞き、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 学習課題 がまくんやかえるくん、かたつむりくんの行動を想像して、音読劇で表そう	○音読劇に対する課題意識を高められるよう、がまくんとかえるくんの行動や会話に関わる部分をモデルとして演示する。 ◇積極的に音読劇について関心をもち、これまでに学習した文学的文章の学習を想起しながら、学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふかめる1	6	○場面ごとに登場人物の行動について想像したことを聞き合う。 ・お手紙を待っている時間を悲しむがまくん。 ・大急ぎで家に帰りがまくんに手紙を書き、手紙をかたつむりくんに頼むかえるくん。 ・悲観的になってベッドで寝ているがまくんと、お手紙を待つよう説得するかえるくん。 ・がまくんをなんとか励まそうとするかえるくんと、ますます諦めを強くするがまくん。 ・かたつむりく人を待ち切れずに、お手紙を書いたことを打ち明けるかえるくん。 ・お手紙のことを聞き玄関に出て一緒にお手紙を待つ2人と手紙が届き喜ぶがまくん。	○登場人物の様子や気持ちを想像できるよう、ペア使えるペープサートを用意する。 ○『お手紙』を想像したことを確かめることができるよう、本文を音読する機会を保障する。 ◇登場人物の行動描写や会話文に着目して、そのときの動きや気持ちを発言している。 <発言②> ◇後のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読を繰り返している。 <音読①>
ふかめる2	4	○グループごとに、場面や役割を分担して音読劇を練習する。 1 ○音読劇を聞き合い、感想を書く。 2 ○シリーズの本を探して読む。	○想像したことを基に音読の仕方を修正できるように、これまでの学習で用いた本文シートや振り返りカードを参照する機会を設定する。 ○音読劇と想像したことを結び付けて感想を書くことができるよう、「はっきりしたこと」「はっきりした理由」を感想の観点として提示する。 ○シリーズに興味をもつきっかけとなるよう、図書室にあるシリーズの本をまとめて提示する。 ◇音読劇のよさや課題点を、想像した登場人物の様子や気持ちに着目して伝えている。 <発言②> ◇「はっきりしたこと」「はっきりした理由」の視点で音読劇の感想を記述している。 <ノート③> ◇シリーズの本を読み、自分の体験と結び付けて、感じたことを発言したり記述したりしている。 <発言・ノート②>
ふりかえる	1	○音読劇の感想を交流し、単元の学習の振り返りをする。	○具体的に想像することの達成感を味わえるよう、単元の学習を通して蓄積してきた振り返りを読み返す機会を設定する。 ◇学習課題の解決状況に関わって、積極的に音読したり書き込みをしたりしながら登場人物の行動について具体的に想像したことを聞き合ったことのよさを発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
	1	○まとめテストを行う。	◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト②>

〈言葉の学習〉『主語と述語に 気をつけよう』		10月(2時間…知・技2)
目標	主語と述語の関係に気付き、主語と述語に気を付けて話したり書いたりすることができる。	
評価 規準	(①知 ・ 技) 文の中における主語と述語との関係に気付いている。((1) カ) (③主体的態度) 積極的に主語と述語の関係に気付き、学習課題に沿って主語と述語に気を付けて話したり書いたりしようとしている。	
○教科書を読み、主語と述語の意味を知る。 ○絵を見て、主語と述語の整った文を書く。		

〈言葉の学習〉『かん字の読み方』		10月(2時間…知・技2)
目標	漢字の異なる読み方に気を付けて漢字を読むことができる。	
評価 規準	(①知 ・ 技) 第2学年までに配当されている漢字を読み、文や文章の中で使っている。((1) エ) (③主体的態度) 進んで第2学年までに配当されている漢字を使い、学習課題に沿って漢字の異なる読み方に気を付けて読もうとしている。	
○教科書を読み、複数の読み方のある漢字があることを知る。 ○漢字の複数の読み方を用いて、いろいろな文を作る。		

〈言葉の学習〉『秋がいっぱい』		10月(3時間…B3)
目標	秋を感じる言葉を探し、経験を文章に表すことができる。	
評価 規準	(①知 ・ 技) 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いている。((1) ア) (②思・判・表) 「書くこと」において、経験したことや想像したことから書くことを見付けている。(B (1) ア) (③主体的態度) 積極的に言葉の働きに気付き、学習課題に沿って経験を文章に表そうとしている。	
○教科書を見たり、校庭に行ったりして、「秋」を感じる言葉をノートに書く。 ○「秋」を感じるものをカードに書き、発表し合う。		

単元	19 みんなで話をつなげよう（『そうだんにのってください』）		10・11月（10時間…A10）
目標	話題に沿って、相手の発言を受けて話をつなぎながら、グループで解決策を相談することができる。		
話し活動	グループで話し合う活動		
評価規準	(①知・技) 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) (②思・判・表) 「話すこと・聞くこと」において, 身近なことや経験したことなどから話題を決め, 伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) 「話すこと・聞くこと」において, 互いの話に関心をもち, 相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ) (③主体的態度) 進んで自分や友達の話をつなぎ, 学習課題に沿って友達の話の話を聞いたり, 協力して解決策を考えたりしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○今までの話合いの経験や, よりよい話合いのために必要なことを話し合い, 学習課題を設定し, 学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 学習課題 聞き方や話し方のコツを見つけて, 上手に話し合おう </div>	○今までの話合いにおける課題点を想起できるよう, 他教科での話合いの写真や, 「うまくいかなかった理由」「うまくいったときのポイント」という観点を提示する。
	1	○話合いの進め方や, 聞き方, 話し方を話し合う。	○話合いの進め方や聞き方, 話し方を理解できるよう, 教科書の話合いの流れを提示する。(CDを用意する。)
ふかめる	3	○3～4人のグループで話し合う。 	○話題に沿って話し合うことができるよう, 話題が書かれたカードをグループごとに用意する。 ○考えをつなげながら話し合えるよう, 「友達の考えのよいところ」「自分の考えと同じところ」という観点を提示する。
	3	○話合いを振り返り, よさや改善点を話し合う。	○話合いのよさや改善点を見付けられるよう, 「進め方」「聞き方」「話し方」を観点として提示するとともに, それらを分けて記述できる振り返りカードを用意する。
	1	○話合いのコツをまとめる。	○「進め方」「聞き方」「話し方」に焦点化したまとめができるよう, 話合いの振り返りに用いた振り返りカードを参照する機会を設定する。
ふりかえる	1	○単元の学習の振り返りをする。	○話合いのコツを見つけたことの達成感を味わえるよう, 単元の学習を通して蓄積してきた振り返りの記述を読み返す機会を設定する。
			評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」 ◇積極的に聞き方や話し方に関心をもち, これまでに学習した話合いの学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③> ◇話合いの進め方や, 聞き方, 話し方に関わるコツについて, 自分の考えを発言したり記述したりしている。 <発言・ノート②> ◇話題に適した情報を集めて記述したり, 話合いに用いたりしている。 <学習プリント・発言②> ◇話題に関心をもち, 友達と自分の考えの共通点や相違点を見いだしながら発言している。 <発言①②③> ◇「進め方」「聞き方」「話し方」に関わって, 改善点を発言したり記述したりしている。 <発言・振り返りカード②> ◇「進め方」「話し方」「聞き方」の課題の解決策に関わる発言をしたり記述をしたりしている。 <発言・学習プリント③>
			◇学習課題の解決状況に関わって, 進んで話合いの「進め方」「聞き方」「話し方」に着目し, 今後に生かせそうな話合いの仕方について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>

単元	20 おもちゃのせつめい書を作ろう（『紙コップ花火の作り方』『おもちゃの作り方をせつめいしよう』）		11月（15時間…B9, C6）
目標	作り方を説明する文章を、事柄の順序に沿って構成し、書くことができる。		
話し活動	おもちゃの説明書を読み、分かったことや考えたことをもとに、おもちゃの説明書を書く活動		
評価規準	(①知・技) 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) (②思・判・表) 「書くこと」において, 事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ) 「書くこと」において, 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 「読むこと」において, 事柄の順序などを考えながら, 内容の大体を捉えている。(C(1)ア) (③主体的態度) 事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え, 学習課題に沿っておもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	2	○生活科「みぢかなものであそぼう」での学習を想起したり, 『紙コップ花火の作り方』を読んで, 紙コップ花火を作ったりして学習課題を設定し, 学習計画を立てる。 学習課題 文の続き方に気を付けて, おもちゃの遊び方を1年生に紹介しよう	○つなぎ言葉の存在や文の続き方の特徴に気付けるよう, 作るために大事だと感じた言葉や文に線を引く機会を設定する。 評価規準<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」 ◇「まず」「つぎに」「それから」などのつなぎ言葉や具体的な本文の構成のよさについて記述している。 <ノート③>
ふかめる	4 3 1 3	○文章の書き方の特徴について話し合う。 ・「はじめ」と「ざいりょう」の書き方 ・「作り方」の説明の仕方 ・写真と文章の対応 ・「楽しみ方」の説明の仕方 ○生活科「みぢかなものであそぼう」の, おもちゃの遊び方等をロイロノート上の説明書に書く。 ○互いの説明書を読み合い, 分かりやすい点と, さらに工夫できそうな点を伝え合う。 ○アドバイスを基に, 説明書を書き直したり, 説明書に合った写真を撮ったりする。	○説明の内容と関連付けて, 文章の書き方の特徴を考えられるよう, 「説明の大事なところ」という視点を基に, 分かりやすさの根拠を話し合う機会を設定する。 ○教材文の特徴を生かした説明を書けるよう, 「はじめ」「ざいりょう」「作り方」「楽しみ方」を記述するカードをロイロノート上に用意する。 ○説明の内容に着目して伝え合えるよう, 異なるおもちゃを作った友達とのペアを編制する。 ○説明の内容に合った写真を説明書に添えられるよう, 『おもちゃの作り方をせつめいしよう』の教材文や教師が作成した説明書の例を提示する。 ◇順序を表す言葉の使い方, 写真と文章との対応関係などに関わらせて理解した, 説明の分かりやすさについて記述している。 <学習プリント①> ◇順序を表す言葉の使い方, 写真と文章との対応などに気を付けながらメモに記述している。 <ロイロノート②> ◇順序を表す言葉の使い方, 写真と文章との対応などに気を付けて, 分かりやすさを伝えたり, 自分のメモを修正したりしている。 <発言・ロイロノート②> ◇順序を表す言葉を用いて, 「はじめ」「材料」「作り方」「楽しみ方」の順序でおもちゃの説明書を記述している。 <ロイロノート②>
ふりかえる	生活科 1 1	○自分のおもちゃの遊び方や作り方を紹介する。 ○自分の説明書を読み返し, 感想を書く。 ○まとめテストを行う。	○説明書の書き方を実感できるよう, 1年生におもちゃを遊んでもらう前に, 説明書を読んで紹介する機会を設定する。 ○分かりやすく書けたことを実感できるよう, 工夫できたことや友達に伝わったことを感想として記述する機会を設定する。 ◇学習課題の解決状況に関わって, 進んで自分の説明のしかたに着目し, 今後生かせそうな説明の仕方について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③> ◇6割以上の問題について, 正答を出している。 <テスト②>
【備考】 ○生活科「みぢかなものであそぼう」の学習の後に, 「事柄の順序に沿って, 自分の遊びを説明する文章を書くことができる」よう指導する。			

〈言葉の学習〉『にたいみのことば，はんたいのいみのことば』		11月（2時間…知・技2）
目標	似た意味の言葉や反対の意味の言葉を集め，語句の関連性を考えることができる。	
評価 規準	(①知・技) 言葉には，意味による語句のまとまりがあることに気付いている。((1) オ) (③主体的態度) 進んで言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，学習課題に沿って似た意味の言葉や反対の意味の言葉の組を作ろうとしている。	
○教科書を読み，言葉には，似た意味のものがあることを知り，似た意味の言葉集めをしたものをロイロノートで共有する。 ○教科書を読み，言葉には，反対の意味のものがあることを知り，反対の意味の言葉集めをしたものをロイロノートで共有する。		

〈言葉の学習〉（『かん字のひろば④』）		11月（1時間…B1）
目標	学習した漢字を使って，絵と対応する文を書くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第1学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使っている。((1) エ) (②思・判・表) 「書くこと」において，語と語との続き方に注意している。(B (1) ウ) (③主体的態度) 今までの学習をいかして，進んで第1学年に配当されている漢字を使って文を書こうとしている。	
○教科書の絵に合うように，広場の様子を想像し，漢字を使って算数の問題文を作る。 ○書いた問題文を友達と読み合う。 ○2学期の言語事項について，まとめのテストをする。		
【備考】		

単元	21 お話をしようかいしよう（『みきのたからもの』）		12月（12時間…C12）
目標	物語の登場人物の行動について想像したことを基に、自分の感じたことを中心とした感想をもつことができる。		
話し活動	自分と同年代の登場人物の物語を読み、想像したことや感想を伝え合う活動		
評価規準	(①知・技) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(C(1)ク) (②思・判・表) 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) (③主体的態度) 進んで場面の様子から登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って想像したことを紹介しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点 評価規準<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○『みきのたからもの』を読み、心に残った出来事や不思議なことを基に学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 学習課題 ようすを思いうかべながらそうぞうし、お話をしようかいしよう </div>	○お話を紹介するという課題意識をもつことができるよう、「心に残った出来事」や「不思議なところ」、「面白いところ」を視点として提示する。 ◇これまで文学的文章の学習を想起しながら、学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふかめる	6 3	○場面の様子や登場人物の行動について想像したことを聞き合う。 ○物語の紹介文を書く。 ・心に残った出来事の中から、紹介したい登場人物の行動や会話を選び、それに自分の感想を添える。	○場面の様子に着目して、登場人物の行動をより具体的に想像できるよう、「登場人物になって感じる」「登場人物を見て気付く」という視点を示した本文シートをペアに一セット用意する。 ○心に残ったことを中心に聞き合うことができるよう、本文シートに印をつける際、心に残った「したことを表す言葉」「言ったことを表す言葉」を観点として提示する。 ○登場人物の行動や気持ちと自分の経験とを結び付けられるよう、自分と登場人物とを対比して記述できる学習プリントを用意する。 ◇登場人物の行動を想像する際に、場面の様子に関わる叙述や会話文を根拠として指摘している。 <発言・本文シート①> ◇自分の心に残った「したことを表す言葉」「言ったことを表す言葉」を中心に、複数の叙述をつなげて、登場人物の行動について具体的に想像したことを発言したり記述したりしている。 <発言・本文シート②> ◇登場人物と自分の共通点や相違点について発言したり記述したりしている。<発言・学習プリント②>
ふりかえる	1	○紹介文を読み合い、感想を伝え合う。 ○まとめのテストを行う。	○想像したことの違いに着目して感想をもてるよう、友達の紹介文について「同じように感じたところ」「違うように感じたところ」という観点を提示する。 ◇想像したことを友達と聞き合ったことよさを発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③> ◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト②>

単元	22 オリジナル絵本を作ろう（『お話のさくしゃになろう』）		12月（12時間…B12）
目標	想像したことを基に、順序に気を付けて物語を書くことができる。		
話し活動	感じたことや想像したことを基に、簡単な物語を書く活動		
評価規準	(①知・技) 身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。((1)オ) (②思・判・表) 「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B (1)イ) 「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B (1)オ) (③主体的態度) 事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え、学習課題に沿って物語を書こうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○3枚の絵で考えられる物語を伝え合って学習課題を設定し、学習計画を立てる。 学習課題 3つの絵を使ってオリジナル絵本を書こう	○単元の学習への意欲をもてるよう、連続する3つの絵を提示する。 ◇事柄の順序に沿った物語の書き方への関心を高め、これまでに学んだ書くことの学習を想起しながら、学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふかめる	2	○『お話のさくしゃになろう』を読み、自分の絵本の登場人物と、その性格を考える。	○登場人物の性格を決められるよう、既習の物語の登場人物の挿絵を用意したり、得意なことや好きなことといった観点を提示したりする。
	1	○「はじめ」と「おわり」の絵を基に、「中」の絵を描く。	○「中」の展開を想像する手掛かりを得られるよう、「中」が空欄の連続する3つの絵を提示する。
	2	○場面ごとに、絵に合うストーリーをカードに書く。	○場面ごとのストーリーを整理しながら書けるよう、カードに書く内容として、「起きたこと」「したこと」「気持ち」「せりふ」を提示する。
	1	○書いたカードを読み合い、おもしろいところや分かりにくいところを伝え合う。	○ストーリーに着目して伝え合えるよう、観点として「場面と場面とのつながり」「出来事と行動、会話とのつながり」を提示する。
	3	○アドバイスを基に、場面ごとに文章を書く。	○カードに書かれたことを文章にできるよう、順序を表す接続語や、文章を書く際のきまりを提示する。
	1	○表紙と裏表紙を作り、1冊の本にまとめる。	○物語の内容に即した題名を付けられるよう、題名の付け方として「人物名」「人物名と○○」「出来事」「道具」の4つを具体例と共に提示する。
ふりかえる	1	○完成した絵本を読み合い、学習の感想を書く。	○学習の成果を実感できるよう、感想を書く観点として、「うまくできたこと」「文章を書くときに使いたいこと」を提示する。
			◇既習の物語の登場人物を基に、オリジナル絵本の登場人物の性格を具体的に記述している。 <学習プリント②> ◇「はじめ」と「おわり」につながるように、「中」の展開について想像したことを絵に描いている。 <発言・学習プリント②> ◇「起きたこと」「したこと」「気持ち」「せりふ」を含んだ出来事をカードに記述している。 <学習プリント(カード)②> ◇3つの場面における出来事や登場人物の行動、会話のつながりに着目して、よさや課題点を伝えたり記述したりしている。 <発言・評価カード②> ◇「起きたこと」「したこと」「気持ち」「せりふ」に関わる語句を用いて物語を書いている。 <物語①> ◇物語の内容に合う題名を付けている。 <作品②>
【備考】 ○ふかめる過程で絵を描く際は、タブレットを活用するとよい。			

〈言葉の学習〉（『冬がいっぱい』）		12月（3時間…B3）
目標	冬を感じる言葉を探し、経験を文章に表すことができる。	
評価 規準	(①知・技) 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いている。((1) ア) (②思・判・表) 「書くこと」において、経験したことや想像したことから書くことを見付けている。(B (1) ア) (③主体的態度) 積極的に言葉の働きの働きに気づき、学習課題に沿って経験を文章に表そうとしている。	
○教科書を見たり、校庭に行ったりして、「冬」を感じる言葉をノートに書く。 ○「冬」を感じる言葉を出し合い、その言葉で「ぼくの、わたしの冬カード」を作る。		
【備考】 ○校庭に行った際は、タブレットを活用し、写真を撮ってくるのもよい。		

〈言葉の学習〉『かたかなで書くことば』		12月（2時間…B2）
目標	片仮名を使って、絵と対応する文を書くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 片仮名を書くとともに片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。((1) ウ) (②思・判・表) 「書くこと」において、語と語の才続き方に注意している。(B (1) ウ) (③主体的態度) 積極的に片仮名で書く語の種類を知り、今までの学習を生かして、片仮名を使って文を書こうとしている。	
○教科書を読み、片仮名で書く言葉の種類を知る。 ○片仮名で書く言葉を使って、文を作る。		
【備考】 ○長音は「ー」で書き表すことを想起しながら、学習を進められるよう意識するとよい。		

〈言葉の学習〉（『かん字の広場⑤』）		12月（2時間…B2）
目標	学習した漢字を使って、絵を説明する文を書くことができる。	
評価 規準	(①知・技) 第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1) エ) (②思・判・表) 「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B (1) ウ) (③主体的態度) 今までの学習をいかして、進んで第1学年に配当されている漢字を使って文を書こうとしている。	
○教科書の絵に合うように、公園の様子を想像し、漢字を使って文を書く。 ○作った文を友達と読み合う。		

〈言葉の学習〉（『ことばを楽しもう』）		12月（2時間…知・技2）	
目標	回文遊びを楽しむことができる。		
議題	回文を読んだり作ったりする活動		
評価 規準	(①知・技) 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(3)イ (③主体的態度) 進んで言葉の豊かさに気づき、学習課題に沿って回文遊びを楽しもうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点 評価規準<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
つか む	1	○様々な回文の例を読んで気付いたことから学習課題を設定し、回文の決まりを話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 学習課題 上から読んでも下から読んでも同じ読み方の言葉を楽しもう </div>	○同じ語を文字列の上下で揃えることで、文が成り立つという回文の決まりに気付くことができるよう、回文の例を語のカードで提示する。 ○語のカードを並び替えたり、複製したりしながら、回文の決まりを発言したり、ノートに回文の決まりを記述したりしている。 <ロイロノート・発言③>
ふふ りか かめ える・	1	○回文の決まりを使って、簡単な回文を作る。(B)	○言葉の不思議さや面白さを友達に伝えながら回文づくりを楽しむことができるよう、単語カードを並び替えて回文をタブレット上で作成する機会を設定する。 ○ 回文の面白いところを学習の振り返りとして記述している。 <ノート①③>
【備考】 ○カリ管に学習指導案があるので、参照するとよい。 ○(B)・・・使用教材：教科書の例文「きんのはとはのんき」「このらいおんおいらのこ」「たったいまがながまいたった」他、「たけやぶやけた」「かるいイルカ」「ダンスがすんだ」 活動内容：上記の回文を一つずつ、ロイロノート上で単語カードにして提示する。(例：「き」「ん」「の」「は」「と」→コピーして並べ替え、回文を作る。) プログラミング的思考：回文を作る活動において、用いる単語を複製し、上下に配置していく規則性で回文ができることを感覚的に学んでいく。(主として分解の思考)			

単元	23 声に出して楽しもう（『ねこのこ』『おとのはなびら』『はんたいことば』）	1月（3時間…C3）
目標	語のまとまりや言葉の響きに気を付けて、音読することができる。	
議題	詩の音読を発表し合う活動	
評価 規準	(①知・技) 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(C(1)ク) (②思・判・表) 「読むこと」において、詩を読んで感じたことを共有している。(C(1)カ) (③主体的態度) 詩を読んで感じたことを積極的に共有し、学習課題に沿って詩を紹介しようとしている。	
	○題名から受ける印象を話し合う。 ○1人で音読したり、グループで音読したりして、音読の工夫を考える。 ○音読を発表し合い、感想を伝え合う。	

単元	24 だいじな言ばに気をつけて読み、分かったことを知らせよう（『ロボット』）		1月（15時間…知・技1，C14）
目標	学校図書館などを利用し、目的をもって本を読み、文章の中の重要な語や文を基に分かったことを説明することができる。		
活動	図書室を利用し、目的をもって本を読み、分かったことや考えたことを説明する活動		
評価規準	(①知・技) 読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ (②思・判・表) 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) (③主体的態度) 文章を読んで感じたことや分かったことを進んで共有し、学習の見通しをもって、本を読んで分かったことを説明しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	2	○図書室でロボットに関する本を探して読む。	○説明することへの問題意識をもてるよう、読んで分かったロボットについて友達に説明する機会を設定する。
	1	○『ロボット』を読んで感想を話し合い、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 学習課題 どんなロボットが、どんなときに私たちを助けてくれるのか知り、新しいロボットを紹介しよう </div>	○『ロボット』の説明のよさに気付けるよう、前時の活動を想起する機会を設定する。
ふかめる	4	○教材文を読み、ロボットの働きや助けてほしいとき、そのよさを表にまとめる。	○ロボットの働きや助けてほしいとき、そのよさを整理してまとめられるよう、3段に分けた表を用意する。
	4	○他のロボットについて本を読んで調べ、あったら助かると思うロボットの説明をする。	○ロボットの説明に必要な情報を取り出すことができるよう、「働き」「助けてほしいとき」「よさ」を視点として提示する。 ○ロボットの説明をするという目的をもって本を読むことができるよう、図書室にあるロボットに関わる本をまとめて提示する。
	2	○友達と、あったら助かるロボットについて説明し合い、感想を伝え合う。	○友達の紹介したロボットに対する考えをもてるよう、「わたしたちが助かりそうなロボットか」という観点を提示する。
ふりかえり	1	○紹介し合ったことを振り返り、感想を書く。	○ロボットと本単元との関わりを実感できるよう、これまでの単元の学習で蓄積した振り返りシートの記述を読み返す機会を設定する。
	1	○まとめテストを行う。	
【備考】			

評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇説明することへの問題意識について発言したり記述したりしている。
<発言・学習プリント③>

◇ロボットの紹介に関心をもち、これまでに学んだ説明的文章の学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。
<発言・ノート③>

◇文章に書かれている、ロボットの「働き」「助けてほしいとき」「よさ」について考えたことを発言したり記述したりしている。
<発言・学習プリント②>

◇読んだ本の中から、「働き」「助けてほしいとき」と「よさ」に関わる言葉を抜き出している。
<学習プリント②>

◇ロボットに関わる様々な本があることについて発言したり記述したりしている。
<発言・学習プリント①>

◇友達の説明を聞き、「わたしたちが助かりそうなロボットか」という観点に関わって感想を発言したり記述したりしている。
<発言・ノート②>

◇学習課題の解決状況に関わって、教科書や図書室で探した説明的文章を読んだことに触れ、今後に生かせそうな本の読み方について発言したり記述したりしている。
<発言・ノート③>

◇6割以上の問題について、正答を出している。<テスト②>

単元	25 ようすをくわしくつたえよう（『ようすをあらわすことば』）		1・2月（7時間…知・技1，B6）
目標	体験したことを，語と語や文と文との続き方に注意しながら，まとまりのある文章に表すことができる。		
話し活動	身近なことや経験したことを基に，考えや気持ちを伝える文章を書く活動		
評価規準	(①知・技) 身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにしている。(1)オ (②思・判・表) 「書くこと」において，語と語や文と文の続き方について注意しながら，まとまりのある文章を書いている。(B(1)ウ) (③主体的態度) 進んで身近なことを表す語句の量を増して語彙を豊かにし，学習課題に沿って，様子を表す言葉を使って文を書こうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○教科書の絵を基に，擬態語や比喩の表現のよさを話し合い，学習課題をつかむ。 学習課題 そのときの様子や気持ちがよく伝わるような作文を書こう	○擬態語や比喩を用いた作文を書くという見通しをもてるよう，雨が降る動画を視聴して，その様子を一文で書く機会を設定する。
ふかめる	1	○学習計画を立て，作文に書く題材を考える。 学習計画例：①取材をする。②メモを作る。 ③メモを基に，下書きをする。 ④見直しをする。⑤清書をする。	○擬態語や比喩を用いて，出来事の様子やそのときの気持ちを書けるよう，擬態語や比喩を使った文とその他の文とで色分けして書き分ける付箋紙（ロイロノート上のカードでもよい）を用意する。
	1	○書きたいこと（題材）を決め，作文メモを作る。	○時間の順序や，「様子→気持ち」という順序など，順序に気を付けて下書きをできるように，付箋紙を出来事の順に並べる機会を設定する。
	2	○原稿用紙の使い方を確認し，下書きをする。	○句読点の打ち方やかぎの使い方に気を付けて原稿用紙を使えるよう，原稿用紙の使い方のモデルを提示する。
	1	○下書きを音読して見直し，原稿用紙に清書をする。	○文章を読み返す習慣を付けることができるよう，推敲の際の視点「出来事の順序」「字の間違い」を提示する。
ふかりえる	1	○互いの作文を読み合い，学習を振り返る。	○出来事の様子と気持ちに気を付けて書けたことを実感できるように，「様子」「気持ち」の観点で文章を読み返す機会を設定する。
【備考】 ○題材としては，擬音語を用いやすい「長なわ大会」や短縄の取組が考えられる。 ○文量は400字詰め原稿用紙1枚～1枚半（400～600字）程度とする。 ○「」（かぎ）や，（点）などの原稿用紙の使い方についての指導を行うようにする。（200字詰の原稿用紙か400字詰の原稿用紙を用いるかは，学年部で相談の上，統一する。）			

評価規準<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」

◇擬態語や比喩に関心をもち，これまでに学んだ書くことの学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。<発言・ノート③>

◇擬態語や比喩で表せる出来事の様子やそのときの気持ちを書くための具体的な言葉を集めている。<付箋紙①>

◇時間の順序や様子→気持ちという順序など，順序に気を付けて発言したり記述したりしている。<発言・付箋紙②>

◇原稿用紙の使い方に気を付けて，作文を書いている。<作文①>

◇出来事の順番に気を付けて書いたり，様子や気持ちを詳しく伝える言葉や表現を工夫したりして，作文を書いている。<作文①②③>

◇学習課題の解決状況に関わって，進んで「様子」「気持ち」に気を付けて書いたことに触れ，今後に生かせそうな表現の仕方について発言したり記述したりしている。<発言・振り返りシート③>

単元	26 「2の〇思い出詩集」を作ろう（『見たこと、かんじたこと』）			2月（11時間…B11）
目標	経験したことや想像したことを詩に書くことができる。			
話し活動	経験したことを詩に表す活動			
評価規準	(①知・技)身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使っている。((1)オ) (②思・判・表)「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付けている。(B(1)ア) (③主体的態度)積極的に経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、これまでの学習を生かして詩を書こうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○過年度の2年生の作った詩集を読み、2年生の行事で楽しかったことを話し合っ、2年生の行事を詩に表すという目的意識をもつ。	○経験したことを詩に書くという見通しをもてるよう、過年度の2年生の詩集を読み、「詩のよいところ」「今の行事と違うところ」の視点で感想を伝え合う機会を設定する。	◇2年生の行事の中から、詩に表したいことを見付けて、記述している。 <ノート②>
	1	○過去の思い出詩集の中の詩や、教材文に例示されている詩の表現の工夫を話し合っ、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 学習課題 詩の特徴を生かして、楽しい『2の〇思い出詩集』を作ろう </div>	○詩の表現の特徴に気付けるよう、過去の思い出詩集の中から、リズムのよい詩をモデルとして提示する。	◇詩を作ることに関心を持ち、これまでに学んだ詩の学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふかめる	1	○2年生で行った行事の中から、自分が題材にしたい行事を選ぶ。	○経験したことを伝え合いながら題材にしたい行事を選べるよう、同じ行事を選んだ子ども同士でグループを編成する。	◇2年生の行事で経験したことや感じたことを基に、題材にしたい行事を選び、記述している。 <ノート②>
	1	○行事を通して経験したことや感じたことを表す言葉を、グループで話し合う。	○詩に用いる言葉を増やすことができるよう、五感を通して感じたことを書く付箋紙を用意する。	◇自分が選んだ行事について、五感を通して感じたことを表す言葉を記述している。 <付箋紙①>
	2	○表現を工夫しながら、詩を書く。	○リズムを整えて詩を書けるよう、七音や五音を基調とした詩を例示する。	◇七音や五音のリズムを基調として、経験したことや感じたことを詩に表している。 <学習プリント①>
	1	○グループで互いの詩を読み合い、表現のよさや改善点を伝え合う。	○詩のもつリズムに着目して、よさや改善点を伝え合えるよう、「文字数」「言葉の繰り返し」の観点を提示する。	◇「文字数」「言葉の繰り返し」に気を付けて、自分の詩を修正している。 <学習プリント②>
ふりかえる	2	○清書した詩をまとめて「2の〇思い出詩集」を作り、学級全体で読み合う。	○リズムに気を付けて詩を書けたことを実感できるよう、これまでの単元の学習で蓄積した振り返りシートの記述を読み返す機会を設定する。	◇学習課題の解決状況に関わって、リズムに気を付けて詩を書いたことのよさを発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
	家庭	○2の〇思い出詩集」を家族に読んでもらい、感想を聞く。		

<言葉の学習> 『カンジーはかせの大はつめい』 2月（3時間…知・技3）	
目標	学習した漢字を使って、漢字クイズを作り、取り組むことができる。
評価 規準	(①知 ・ 技) 第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。((1) エ) (③主体的態度) 積極的に第2学年までに配当されている漢字を読み、今までの学習を行かして漢字クイズに取り組もうとしている。
	○2つの漢字から1つの漢字を作るクイズを行い、2つの漢字を組み合わせてできている漢字があることを知る。 ○2つの漢字を用いて熟語を作るパズルを行い、2字熟語を知る。 ○3学期の言語事項について、まとめのテストをする。
	【備考】

単元	27 思いを手紙でつたえよう（『すてきなところをつたえよう』）		2月（8時間…B8）
目標	事柄の順序に沿って、丁寧な言葉遣いで手紙を書くことができる。		
話し活動	1年間一緒に過ごした友達に手紙を書いて渡し合う活動		
評価規準	(①知・技) 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけながら使っている。((1)キ) (②思・判・表) 「書くこと」において、経験したことから書くことを見付け、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 「書くこと」において、自分の思いが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ) 「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(B(1)エ) (③主体的態度) 粘り強く文章を読み返して間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりし、学習の見通しをもって手紙を書こうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点 評価規準<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○1年間の友達との関わりを振り返り、思いを伝えるための学習課題を設定し、学習計画を立てる。 —学習課題— 先生や友達に、思いの伝わる手紙を書こう	○手紙を書く目的や相手意識をもてるよう、1年間の生活の中での世話になった先生や友達への思いを出し合う機会を設定する。 ◇先生や友達に思いを伝える手紙に関心をもち、これまでに学んだ書くことの学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
ふかめる	1	○よい手紙について話し合う。	○丁寧なことばで書くことよさに気付けるよう、比較対象として常体を用いた手紙と敬体を用いた手紙をモデルとして提示する。 ◇常体と敬体の違いや、相手に合わせて敬体を使うとよいことなどに触れて、発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①>
	1	○手紙に書く内容を決める。	○具体的なエピソードを想起できるよう、一年間の授業や休み時間の様子を写真で複数提示する。 ◇先生や友達に伝えたいことを、具体的なエピソードとともに明確にしている。 <学習プリント②>
	3	○手紙を書くことと読み返すことを繰り返す。	○内容の修正に目が向くよう、「内容ごとのまとまり」という観点を提示する。 ◇構成に気を付けて手紙を繰り返し修正している。 <手紙②>
			○表現の修正に目が向くよう、句読点やかぎ、文末が正しく書かれたモデルを提示する。 ◇句読点やかぎ、文末表現に気を付けて手紙を繰り返し修正している。 <手紙②>
	1	○手紙をやりとりして、返事を書く。	○手紙のやりとりを通して互いの思いを伝え合うことができるよう、返事を書くためのカードを用意する。 ◇友達の手紙を読んで、よいと思ったことや、うれしかったことを返事に書いて <返事カード③>
かふえりる	1	○学習後の感想を伝え合う。	○手紙をやりとりすることよさを感じられるよう、返事カードを読み合う機会を設定する。 ◇学習課題の解決状況に関わって、進んで思いの伝わる手紙の書き方に着目し、今後に生かせそうな手紙の書き方について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
【備考】 ○学習発表会として、保護者に対して感謝を伝えるという目的を設定することも可能である。(R7は、学習発表会で保護者に手紙を渡した。)			

単元	28 そうぞうを広げて (『スーホの白い馬』)		2・3月 (15時間…C15)
目標	物語を読んで想像することと音読することを繰り返し、登場人物の行動を具体的に想像することができる。		
話し活動	物語を読み、想像したことを聞き合う活動		
評価規準	(①知・技) 身近なことを表す語句の量を増している。(C(1)オ) (②思・判・表) 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) (③主体的態度) 文章を読んで感じたことを積極的に共有し、学習の見通しをもって物語の感想を交流しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○『スーホの白い馬』を読んで初発の感想を話し合い、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 学習課題 場面の様子について想像したことを、みんなで聞き合おう </div>	○場面の様子に関わる感想をもてるよう、「心に残った出来事」「疑問に思ったこと」という観点を提示する。
ふかめる	8	○話題ごとに想像したことを話し合い、想像したことをまとめる。	○場面の様子について想像を広げられるよう、「言ったこと」「したこと」「まわりの様子」という観点を提示する。 ○物語を読んで想像したことを共有できるよう、ペアで1枚の本文シートを用意する。
	2	○心に残った場面を紹介する。	○物語の叙述を根拠に場面を紹介することができるよう、「心を動かされたところ」「理由」の観点を提示する。
	2	○世界の昔話や民話を探して読む。	○世界の昔話や民話に興味をもつきっかけとなるよう、図書室にある世界の昔話や民話をまとめて提示する。
ふりかえる	1	○学習後の感想を書き、初発の感想との違いをまとめる。	○初発の感想との差異に気付けるよう、互いの初発の感想と学習後の感想とを読み比べる機会を設定する。
	1	○まとめテストを行う。	
評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」 ◇物語の内容に関心をもち、これまでに学んできた文学的文章の学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>			
◇「したことを表す言葉」「言ったことを表す言葉」「まわりの様子」を中心に、複数の叙述をつなげて、登場人物の行動についてより具体的に想像したことを発言したり記述したりしている <発言・本文シート②>			
◇ペアの友達と互いに想像したことを伝え合ったり、書き込んだりしている。 <発言・本文シート②>			
◇教科書の叙述を根拠に用いて、心を動かされたことを紹介している。 <録画した動画①>			
◇世界の昔話や民話を読み、感じたことを発言したり記述したりしている。 <発言・ノート②>			
◇学習課題の解決状況に関わって、友達と考えを聞き合いながら想像したこと のよさについて発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>			
◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト②>			
【備考】 ○ふかめる過程で話題になることの例としては、「白馬は特別な馬なのか」「スーホのために白馬が頑張るのか」「白馬のためにスーホが頑張るのか」などがある。子どもの初発の感想やふかめる過程で新たに出てきた疑問を取り上げながら、教室全体で考える話題として共有するとよい。			

単元	29 1年間の思い出をつたえよう（『楽しかったよ，二年生』）		3月（8時間…A8）
目標	経験したことを，話す事柄の順序に気を付けて紹介することができる。		
話し活動	経験したことを紹介する活動		
評価規準	(①知・技) 姿勢や口形，発声や発音に注意して話している。(1)イ) (②思・判・表) 「話すこと・聞くこと」において，身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) 「話すこと・聞くこと」において，相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えている(A(1)イ) 「話すこと・聞くこと」において，伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) (③主体的態度) 伝え合うために必要な事柄を選んで選び，これまでの学習をいかして経験したことを紹介しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点 評価規準<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○2年生になってできるようになったことについて話し合い，学習課題を設定し，学習課題を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 学習課題 「2の○思い出詩集を作ろう」で詩に表したときの出来事をお家の人にも紹介しよう </div>	○話す事柄の順序を考える意識をもてるよう，発表動画*を視聴する。 ◇詳しく話すことへの関心を高め，これまでに学んだ話すことの学習を想起しながら学習課題について発言したり記述したりしている。<発言・ノート③>
ふかめる	2 2 1 1	○1年を振り返って，話すテーマを決める。 ○集めた情報の中から，使う言葉と使わない言葉を選別し，話を組み立てる。 ○発表の練習と修正とを繰り返す。 ○発表をする。	○テーマに関わる多くの情報を集められるよう，「したこと」「思ったこと」「友達がしたこと」の観点を提示する。 ○「中」を時間的な順序を意識して構成できるよう，書き出した情報を，時系列に並べ替える機会を設定する。 ○修正点を明確にできるよう，「視線」「声の大きさ」「速さ」を観点として提示する。 ○「視線」「声の大きさ」「速さ」を意識した発表になるよう，3つの観点を示した評価シートを用意する。 ◇観点に従い，詩の内容を詳しくするための情報を記述している。<ロイロノート②> ◇「中」を，時間的な順序を考えて構成している。<学習プリント②> ◇「視線」「声の大きさ」「速さ」に関わって友達にアドバイスしたり，自分の練習の際に気を付けたりしている。<発言・練習の様子②> ◇「視線」「声の大きさ」「速さ」に注意して発表している。<発表の様子①>
ふりかえる	1	○発表した感想を話し合う。	○「視線」「声の大きさ」「速さ」に気を付けて発表することができたことを実感できるよう，保護者からの感想を提示する。 ◇学習課題の解決状況に関わって，「視線」「声の大きさ」「速さ」に気を付けて発表したことに触れ，今後に生かせそうな発表のしかたについて発言したり記述したりしている。<発言・ノート③>
【備考】 ※発表動画は，P134のQRコードを読み取ることで視聴できる。 ○学習発表会として，各教室でモニターに各自が作った詩を表示しながら学習発表会として発表を行うことも可能である。(R6，7は，学習発表会で発表した。)			

時間	内容
1	○CRT 学力検査(国語)を行う。